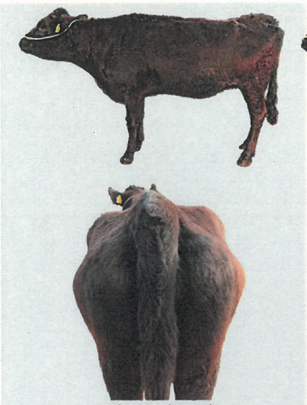
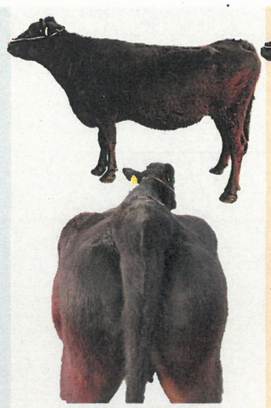
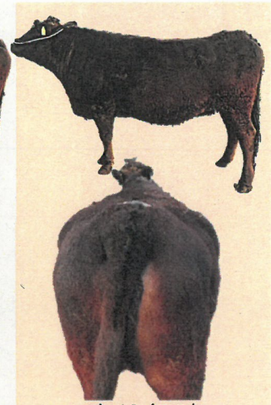
岡山和牛繁殖牛飼育マニュアル

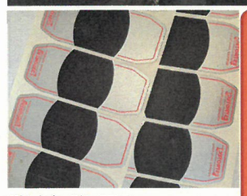
成　牛

栄養度は過肥にならないように注意　受胎率の低下や分娩事故につながる
発情発見ｼｰﾙなどを活用し見逃し防止、分娩監視装置やﾈｯﾄﾜｰｸｶﾒﾗなどを活用し労働の負担を低減、ただし機械に頼りすぎない
自給飼料をしっかり活用しコスト低減（下のメニューは一例、参考にして飼料代を計算し自分の給与体系をつくる）


痩せ気味

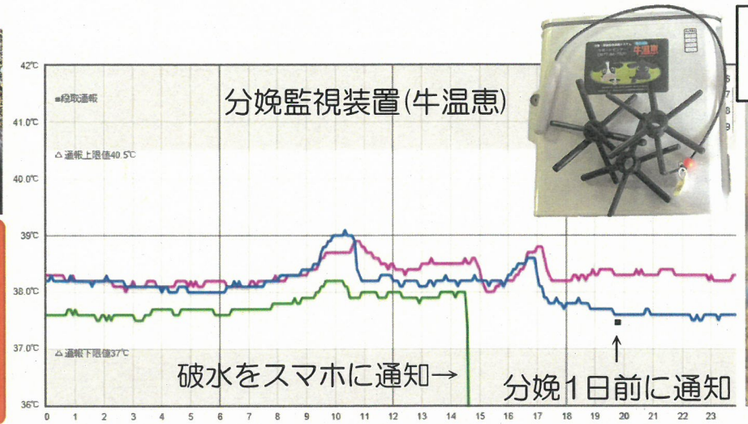

適　正


太り気味



↑発情牛

発情発見シール



給与メニュー例		維持期	胎児が大きくなる時期			分娩	子牛を乳で大きくする時期		維持期
		～2カ月	2ヵ月前	1ヵ月前	14日前		1ヵ月	2～3ヵ月	3ヵ月～
給与例1	繁殖用飼料(連産きらきら)	1kg	1.5～2kg	2kg	3～3.5kg		3～3.5kg	2.5～2kg	1kg
	乾草（スーダン）	5～6	5～6	5～6	5～6		6.5	6.5	5～6
	ヘイキューブ		0.5	0.5	0.5		0.5	0.5	
給与例2	繁殖用飼料(連産きらきら)	0.5	1.0～1.5	1.5	2.5～3		2.5～3	2～1.5	0.5
	自給ｻｲﾚｰｼﾞ（ｲﾀﾘｱﾝ,ｽｰﾀﾞﾝ）	4.5～6	4.5～6	4.5～6	4.5～6		6	6	4.5～6
	稲WCS	6	6	6	6		6	6	6
	ヘイキューブ		0.5	0.5	0.5		0.5	0.5	
【ポイント】 ・母牛は10歳(8産)が更新目安 ・繁殖記録をつける(牛毎の癖) ・固形塩、運動、削蹄、日光浴を ・超早期母子分離後は維持期の飼料を給与 ・分娩前後はﾋﾞﾀﾐﾝ･ﾐﾈﾗﾙ剤を補給		自給飼料をしっかり活用 自給飼料もコストに入れる	牛下痢５種混合ﾜｸﾁﾝ(初産１回目)	牛下痢５種混合ﾜｸﾁﾝ(初産２回目,経産) コクシジウム及び寄生虫の駆除	分娩房へ移動 胎位を確認 牛温恵装着 (昼間分娩誘起法※)		母牛の体重は減らさない 10日目以降制限哺乳 初回発情←	子牛が人工乳を2.3kg食べるようになったら離乳 (90日齢までに離乳) →受胎	受胎確認後、発情していないか (流産の見逃し)

・３～４月 異常産４種ワクチン 毎年１回（初めて注射する時は１カ月間隔で２回接種）　放牧する場合、クロストリジウム・ボツリヌスのワクチンも接種
・初乳は６時間以内に、ただし哺乳意欲の弱い子牛に強制的な給与はダメ、初産,2産目は生後すぐに初乳製剤(「さいしょのミルク」）を給与
※分娩予定日の14日前から夕方に1日分の飼料を給与、翌朝に残餌を撤去、日中は水だけで餌を与えず休息させ、昼間分娩の確率を高める

JAグループ(農協・全農岡山県本部・JA西日本くみあい飼料(株))・(一社)岡山県畜産協会　畜産研究所監修

令和４年３月作成